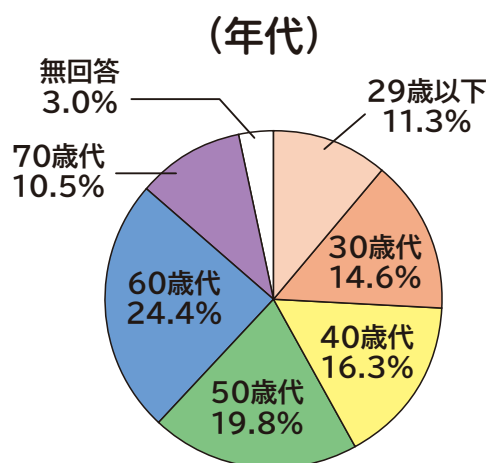
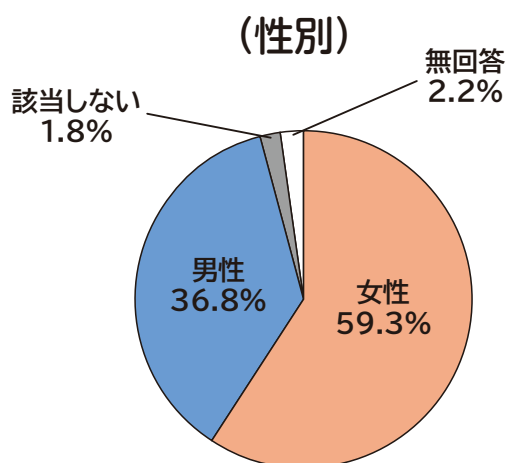


北九州市の 男女共同参画社会に関する調査報告書

概要版

調査概要

- ◆対象:市内在住の18歳から75歳の男女4,000人(住民基本台帳から無作為抽出)
- ◆期間:令和4年9月5日~9月30日
- ◆回収結果:回収総数 1,436(回収率35.9%)
- ◆回答者の属性:



- ◆比較対象の全国調査は令和元年の調査結果です。(内閣府・男女共同参画社会に関する世論調査)
- ◆調査結果:北九州市のホームページに公開しています。

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/soumu/12001194.html>



1

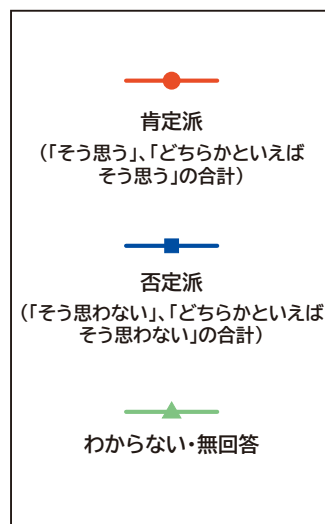
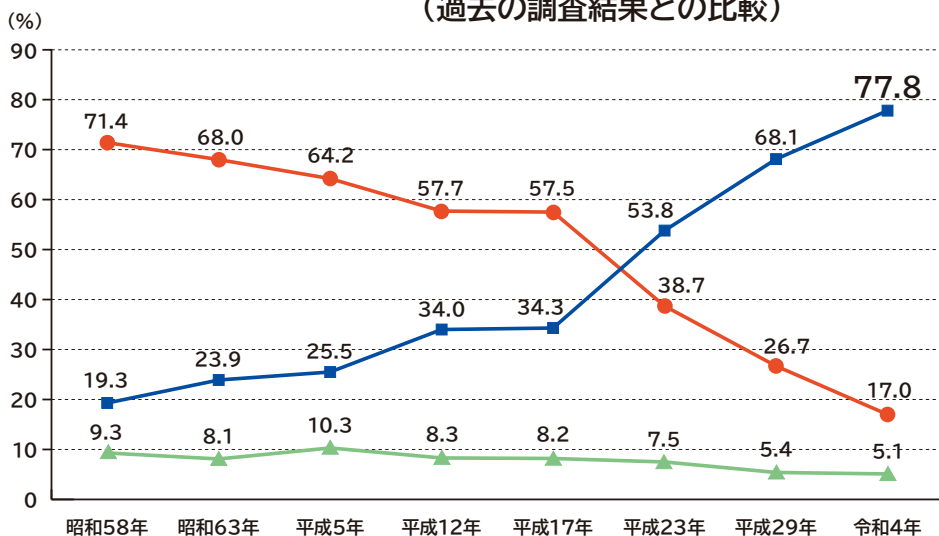
家庭や男女平等に関する意識について

固定的性別役割分担意識について

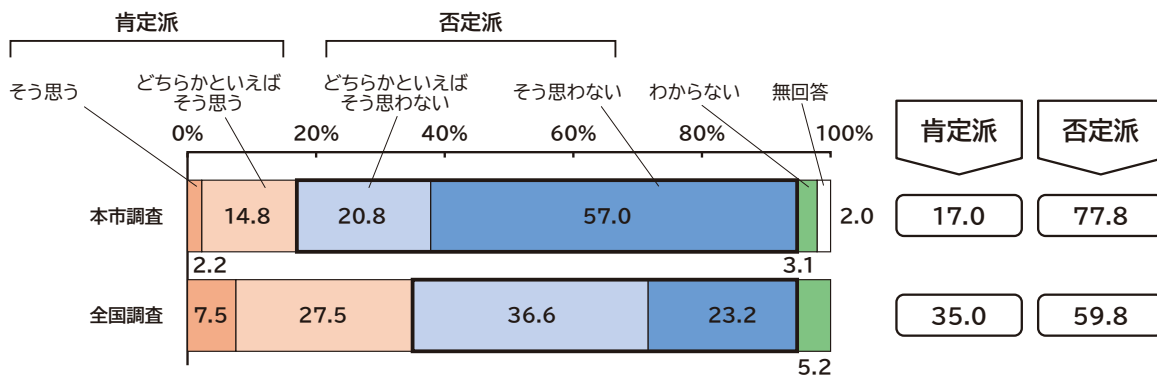
「あなたは、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』という考え方についてどう思いますか。」という問いに対して、否定的な考え方を持つ人が約8割となりました。全国と比較すると、本市の方が否定的な考え方を持つ人の割合は高く、性別による役割分担意識は薄れてきています。



(過去の調査結果との比較)



(全国比較)

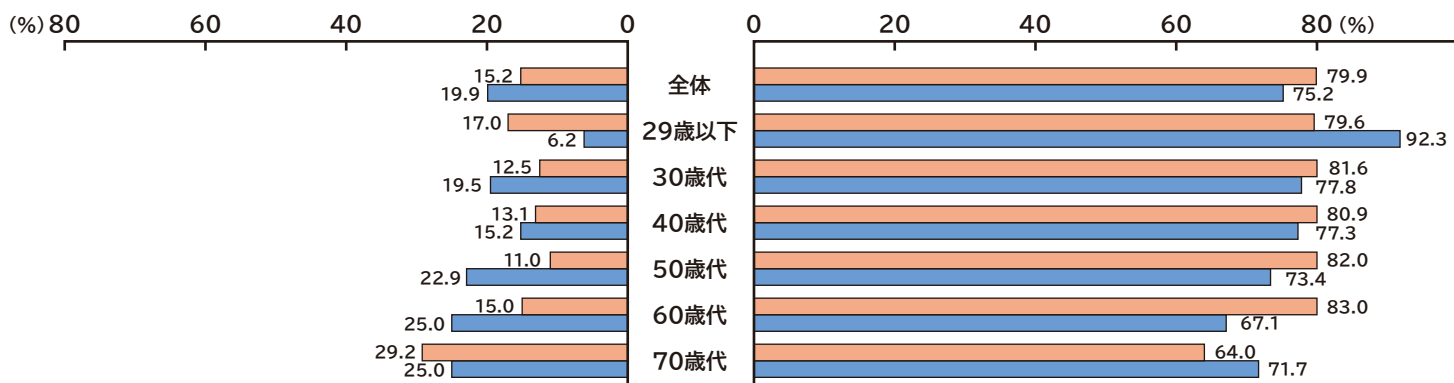


肯定派

(年代別、男女別)

否定派

女性 (orange)
男性 (blue)

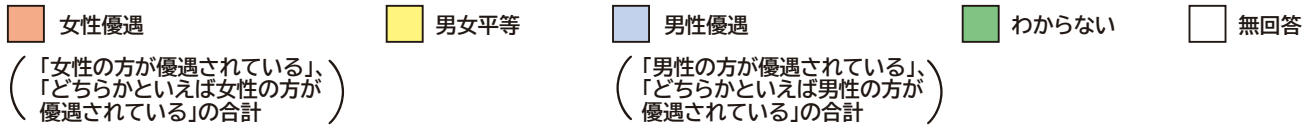


各分野における男女平等達成感について

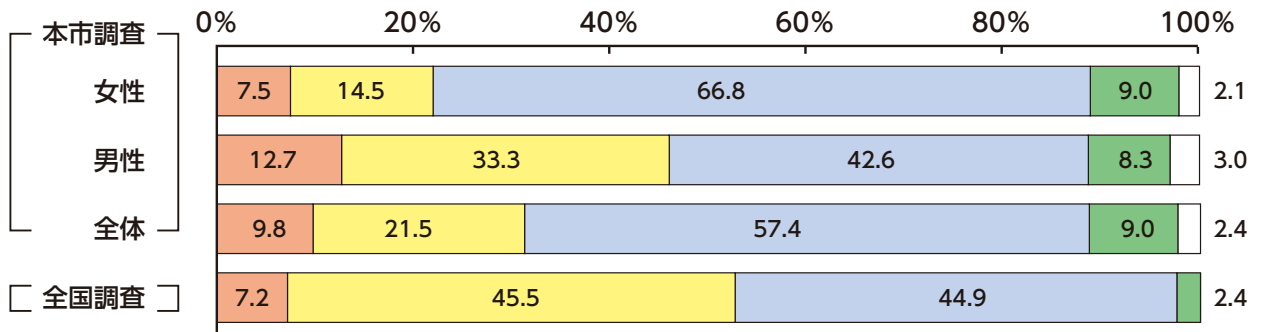
「あなたは、次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。」

様々な分野での男女平等の達成感について尋ねたところ、すべての分野で「男性優遇」が「女性優遇」を上回っています。

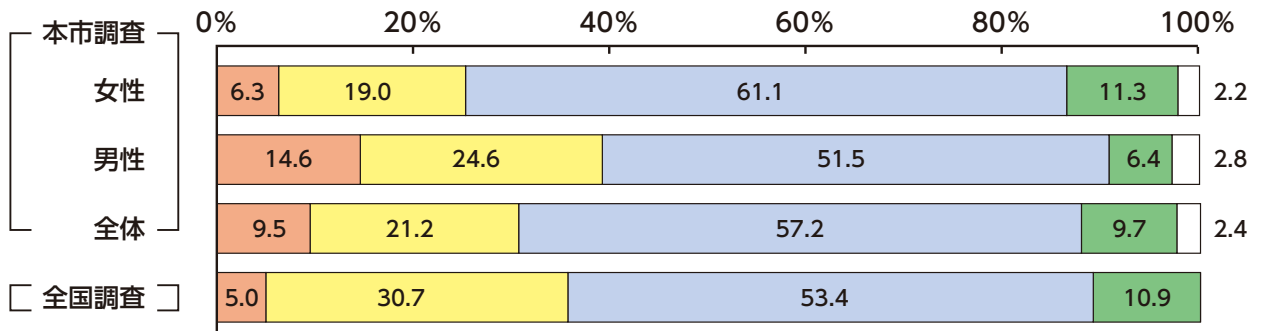
また、「男女平等」と回答した割合は、男性より女性の方が低く、全国との比較では本市の方が低くなっています。



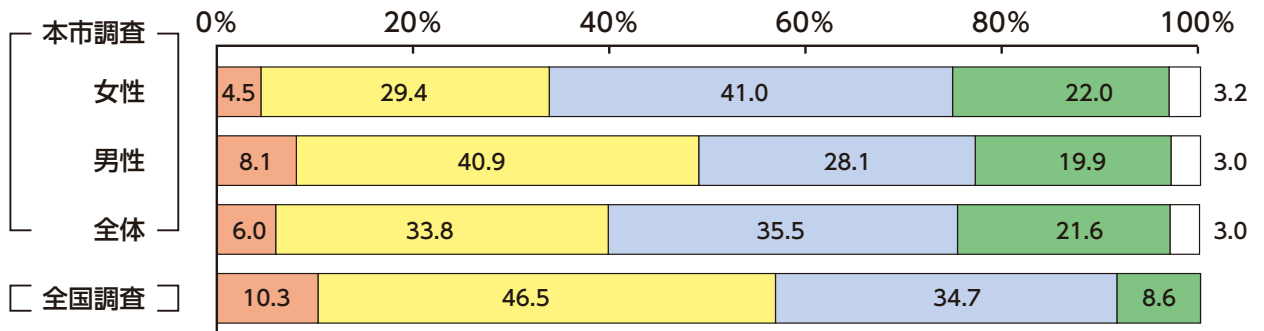
家庭生活



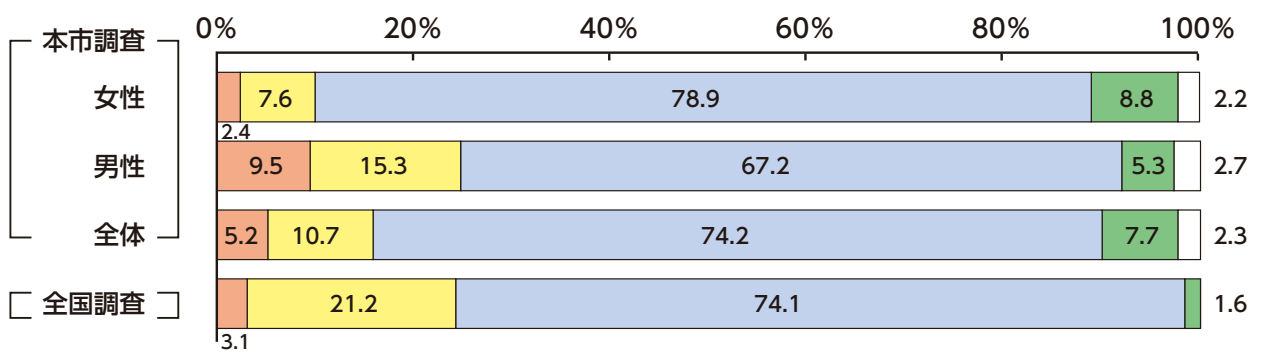
職場



地域活動の場



社会全体

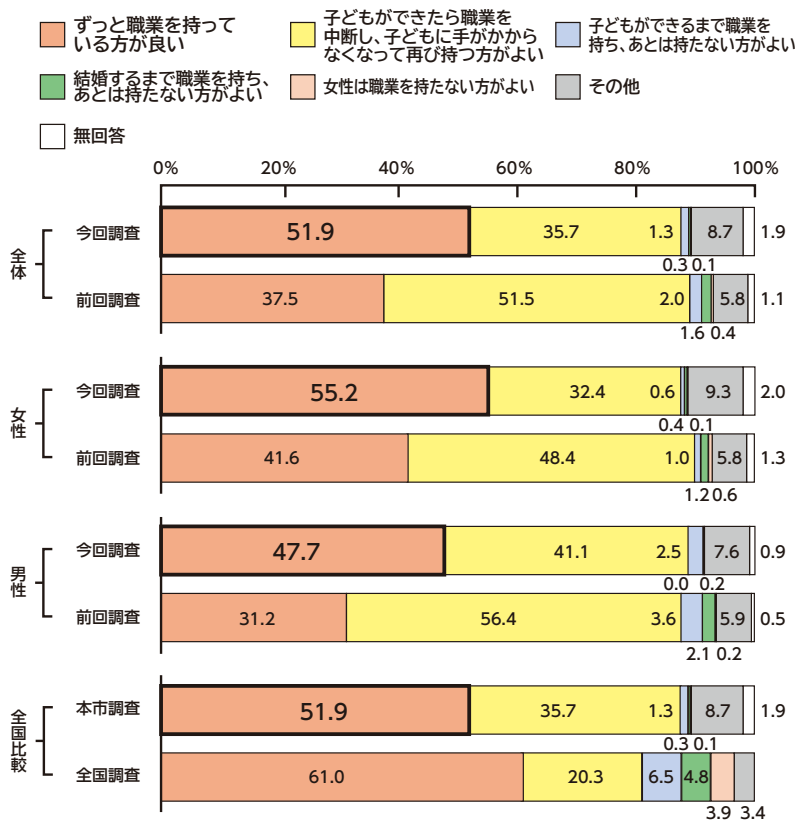


2

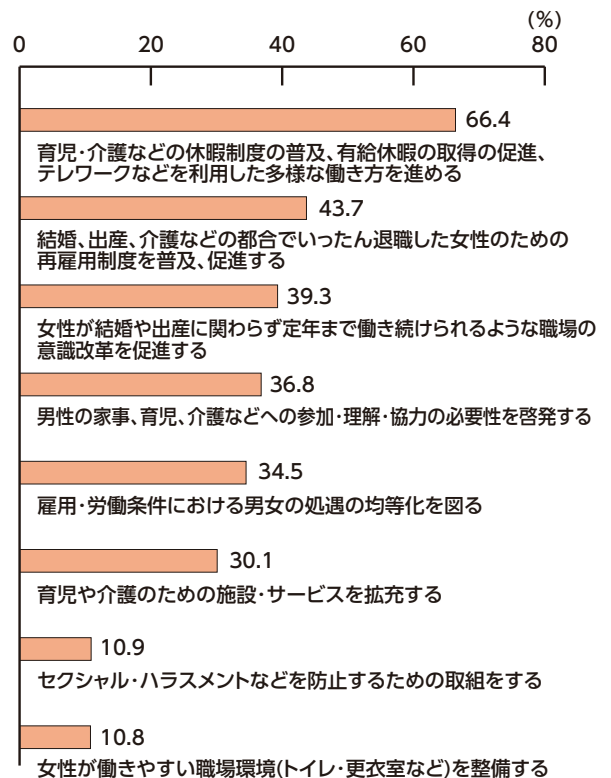
男女の働き方や女性の社会進出について

女性が職業を持つことについて、結婚や出産・育児にかかわらず「ずっと職業を持っている方が良い」と考える人が初めて半数を超え、女性の社会進出に積極的な考えが増えています。
 男性の育児休業取得への理解も進んでおり、女性の就労継続や男女ともに働きやすい職場づくりのために、多様な働き方を進める必要があります。

女性が職業を持つことへの考え方

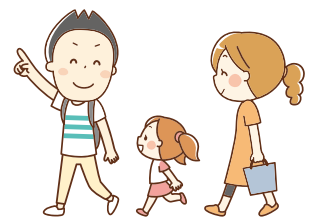
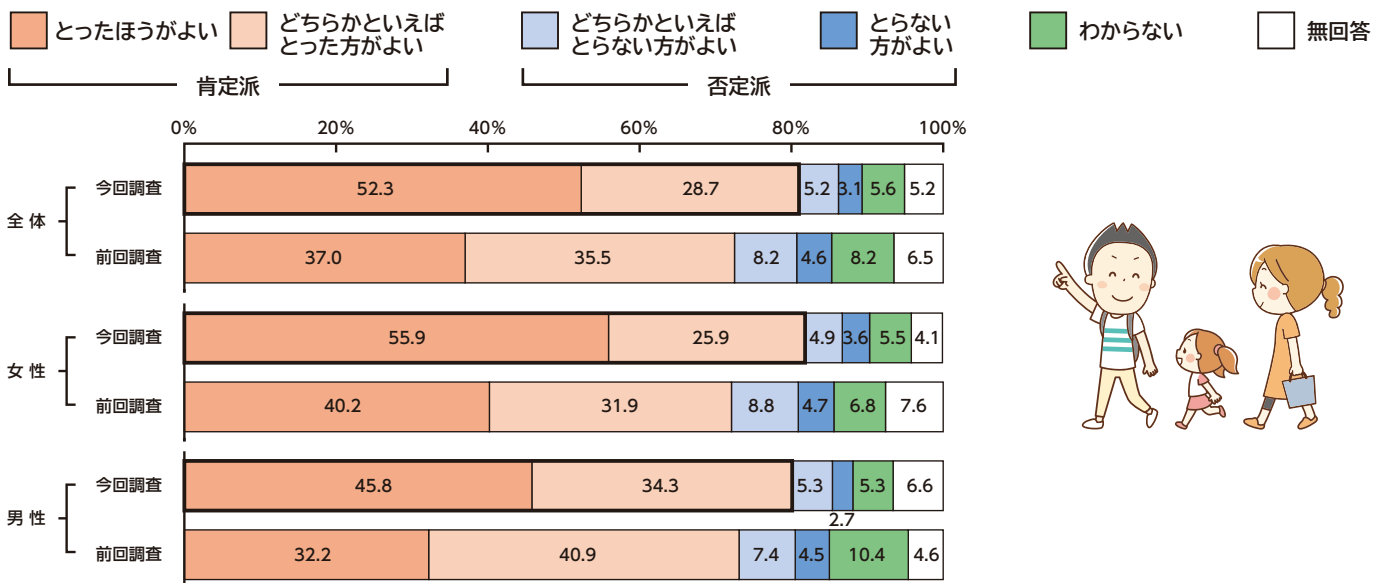


男女がともに働きやすい職場をつくるために必要なこと



男性が育児休業を取得することへの考え方

自分、または自分の夫が育児休業を取得することに肯定的な考えは前回より増え、男女ともに8割を超えています。

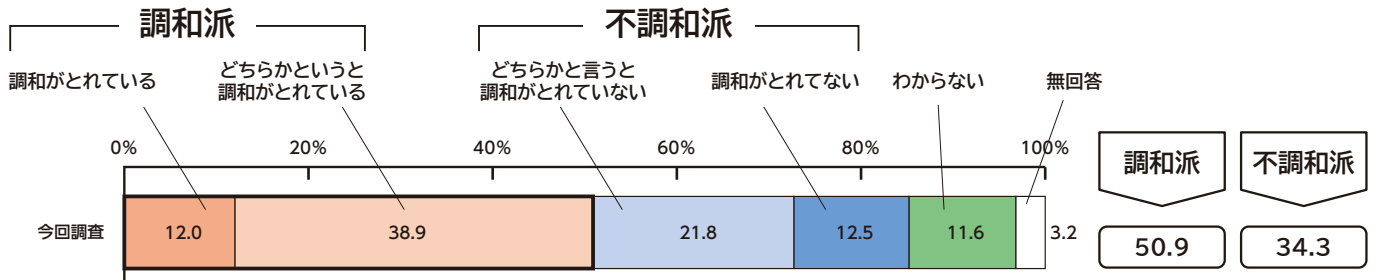


3

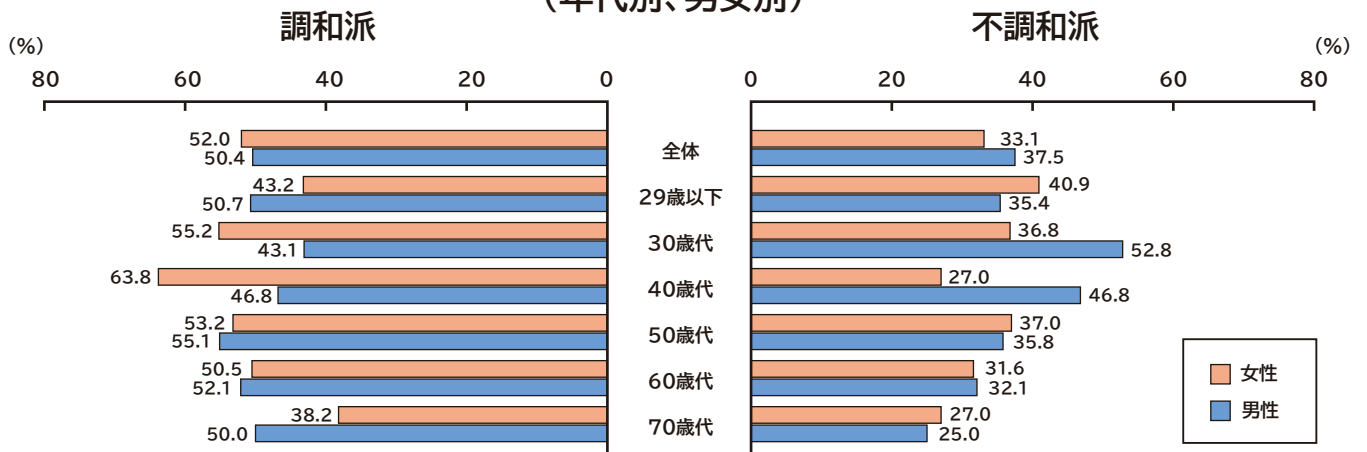
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

ワーク・ライフ・バランスに関する現状認識

「仕事と生活の調和がとれている」と回答した割合は、全体の半数を超えています。年代別・性別でみると、30歳代男性は「調和がとれていない」と回答した割合が高くなっており、生活より仕事の比重が高い傾向にあります。

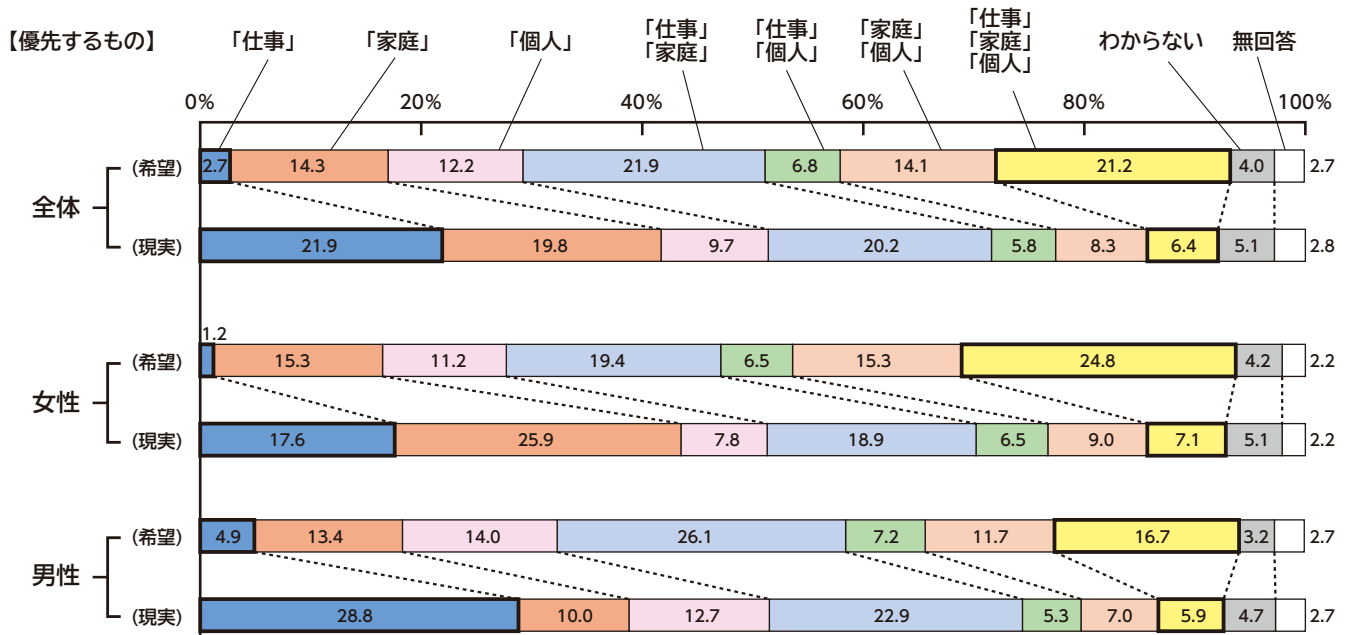


(年代別、男女別)

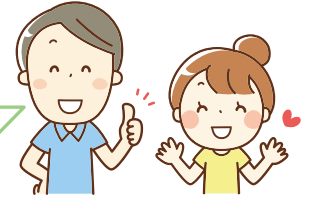


仕事、家庭生活、個人の生活の優先度(希望と現実)

全体でみると、「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先したい」と希望する割合は21.2%と高いものの、現実には6.4%となっています。一方、「仕事を優先したい」という割合2.7%に対して、現実には21.9%となっており、双方とも希望と現実乖離が見られます。

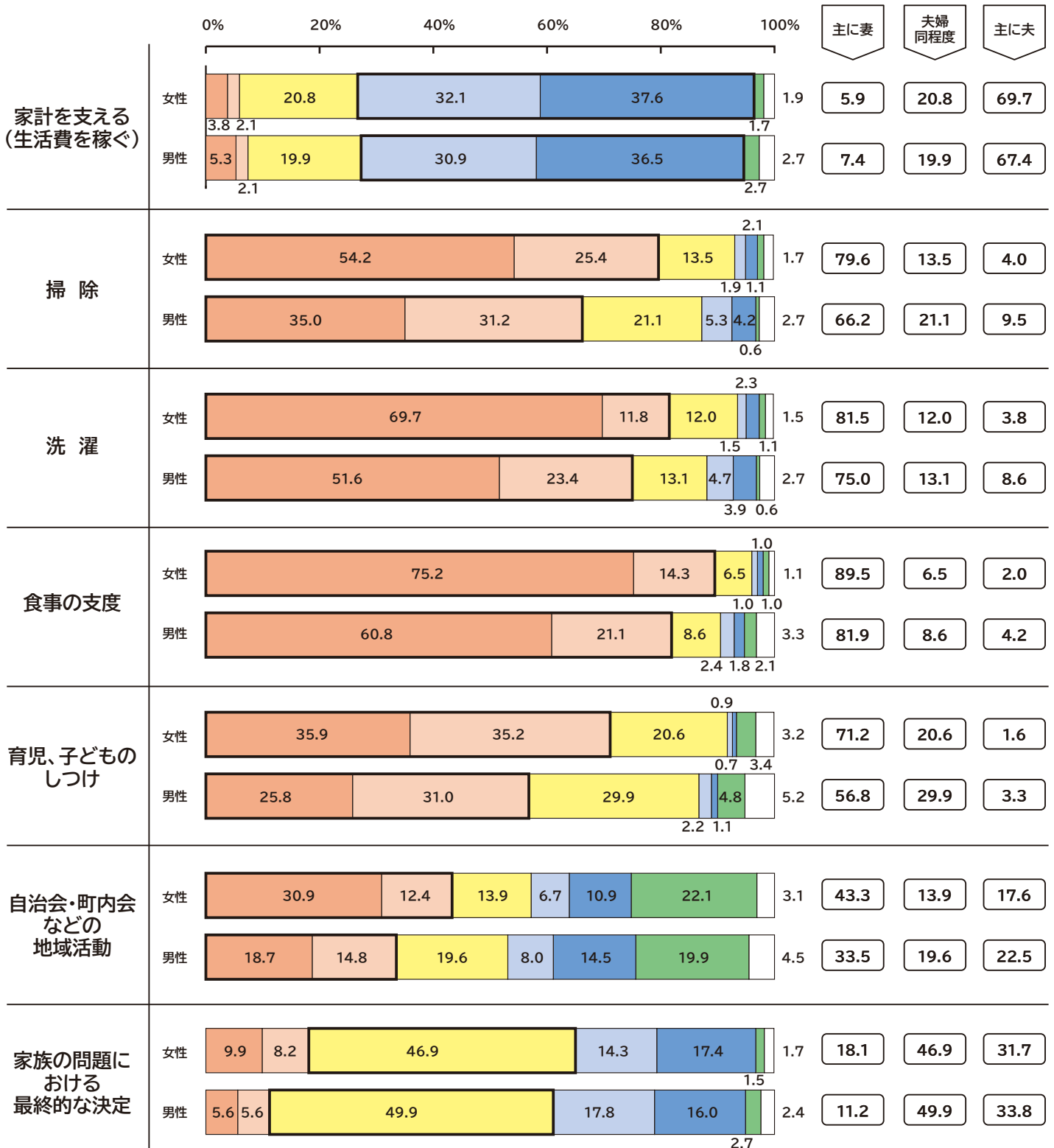


家庭内の仕事の分担



家庭内の様々な仕事の分担について、「家計を支える」ことは主に夫が、「家族問題の最終決定」は夫と妻が同程度に分担していますが、それ以外の家事、育児、地域活動などは主に妻が行っていると回答した割合が高くなっています。

主に妻が行っている
 主に妻が行い、夫が一部を分担している
 夫と妻が同じ程度に分担している
 主に夫が行い、妻が一部を分担している
 主に夫が行っている
 その他
 無回答



4

DV(ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力)について

DVの認識と経験

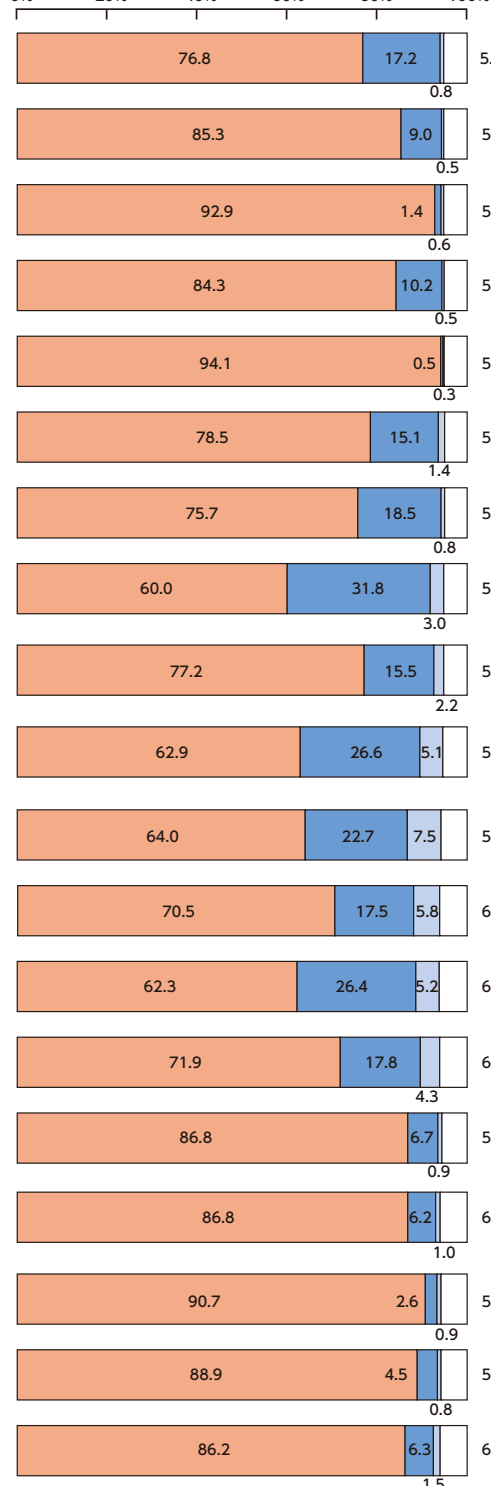
「大声でどなる」「交友関係や行き先、電話・メール・SNSを細かく監視する」「何をいっても無視して口を聞かない」などの精神的な暴力を「DVにあたらぬ」「DVにあたらぬ場合もある」と認識する割合が高くなっています。一方、加害や被害の経験では、「大声でどなる」「ドアをけったり、壁に物を投げつけたりしておどす」「平手で打つ」などの割合が高くなっています。

■ どんな場合でも暴力だと思う
 ■ 暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う
 ■ 暴力だとは思わない
 ■ 無回答

■ されたことがある
 ■ 被害・加害のどちらもある
 ■ したことがある
 ■ 被害・加害のどちらもない
 ■ 非該当(これまで配偶者・恋人等がいなかった)
 ■ 無回答

認識

0% 20% 40% 60% 80% 100%



身体的DV

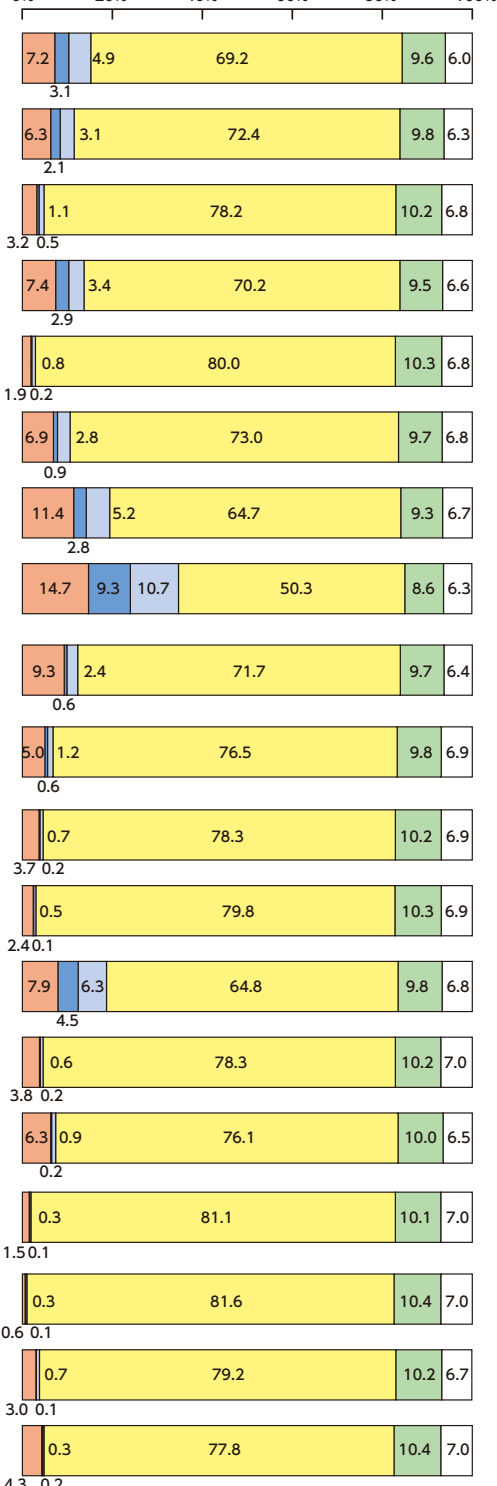
精神的DV

性的DV

経済的DV

経験

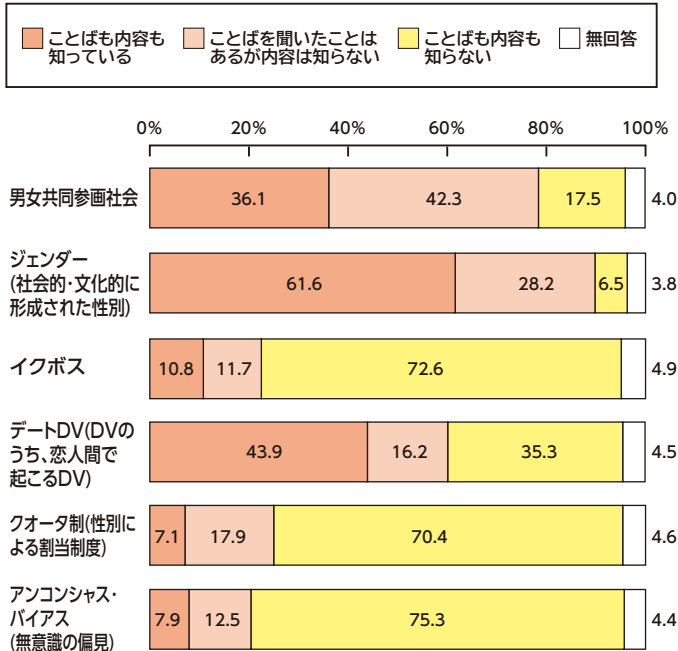
0% 20% 40% 60% 80% 100%



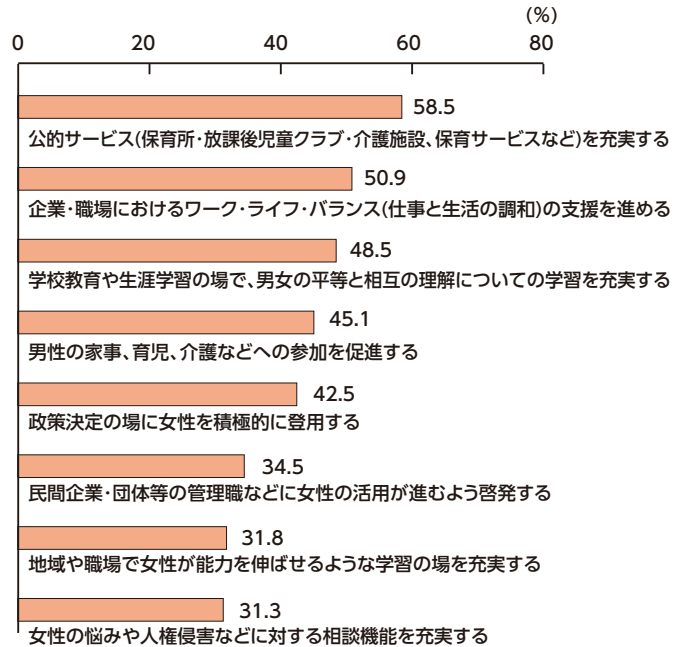
5

男女共同参画の推進について

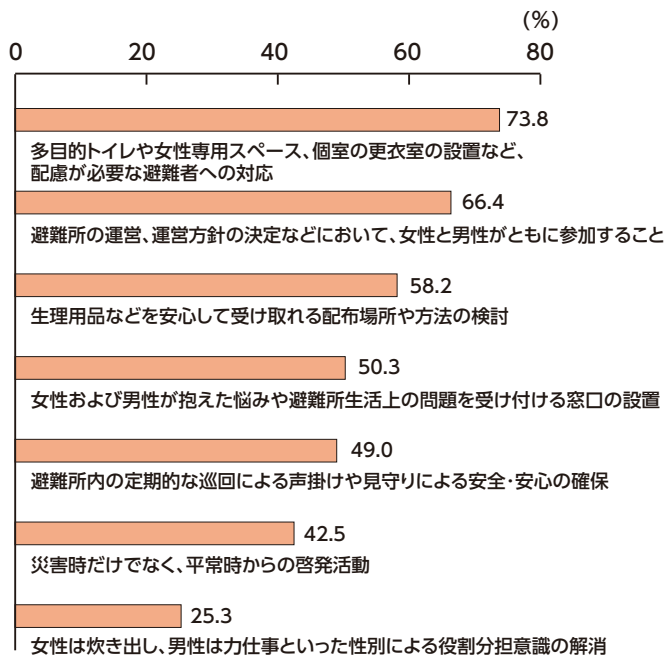
言葉の認知度について



男女共同参画社会の実現のために推進すべき施策

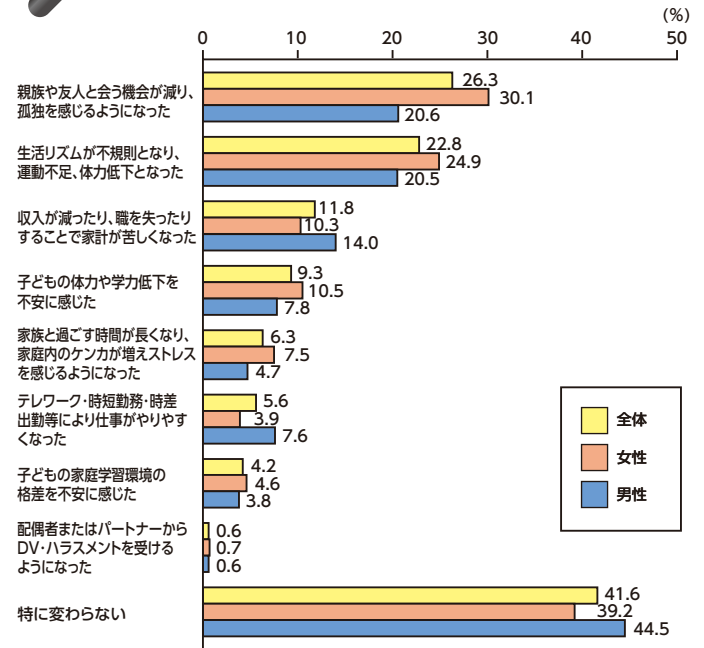


災害時の避難所運営で必要なことについて



6

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活や働き方の変化



北九州市の男女共同参画社会に関する調査報告書(概要版) 令和5年1月

北九州市総務局女性の輝く社会推進室男女共同参画推進課
 〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1 TEL 093-582-2405
 e-mail sou-danjo@city.kitakyushu.lg.jp

北九州市印刷物登録番号 第2208031A号